

2020年11月1日  
宮崎中部教会召天者記念礼拝  
牧師 乾元美

詩編 100 : 1~5

ローマの信徒への手紙 14 : 7~9

「わたしたちは主のもの」

<わたしたちのため>

今日は、召天者記念礼拝として礼拝をささげます。わたしたちは、先に地上の歩みを終えて召された、愛する人々、大切な人々を覚えます。色々なあたたかい思い出。そして、悲しい、寂しい思い。召された方を覚えることは、わたしたちにとって大切な時であり、また辛さを覚える時であるかも知れません。

一人の、大切な方の存在を、確かに共に生きた、愛する人の存在を、わたしたちは心に思い起こします。そしてまた、時代を共にすることはなかったけれども、同じこの教会に連なっていた、多くの兄弟姉妹、信仰の先達たちのこともまた、思い巡らします。

しかし、わたしたちは今日、そうして先に召された方々のために、礼拝をささげるのではありません。召された方々のために、救いや幸せを祈ったりは致しません。

なぜなら、召された方たちは、もうすでに神さまの御手の中に置かれているからです。この世の歩みから離れ、完全に神さまのご支配のもとにあることを信じ、わたしたちは、その方たちを神さまの御手に、すでにお委ねしたからです。

ですから、召天者記念礼拝は、召された信仰の先達たちに、神さまが信仰を与え、救いを与え、共に歩んで下さったことを賛美し、感謝する時です。

あるいは、信仰者でなかったとしても、教会で葬りの業をなした方々、あるいは、家族が教会員であることで、祈りを通して、神さまが関わって下さった方々がおられます。そういったお一人お一人をも、神さまが恵みと憐れみによって、恵みの御手の内に置いて下さることを信じ、わたしたちは、神さまの御名をほめたたえるのです。

そして何より、そのことを通して、今ここに集うわたしたちが、信仰による希望を与えられ、慰めを与えられ、これからの歩みを強められるために、この礼拝はささげられるのです。

<主のため>

さて、わたしたちは、召された方々を思う時に、生きること、死ぬことと向き合うことになります。今、わたしたちは生きています。では、何のために生きているのか。何のために死ぬのか。どこへ向かうのか。このことは誰もがあふつかる問いではないでしょうか。

今日読まれたローマの信徒への手紙 14 章 7~8 節には、このように語られています。

「わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ

人もいません。わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。」

さて、わたしたちは、本当にそのように生き、そのように死ぬのでしょうか。本当に、このように歩んでいるのでしょうか。

わたしたちは、いつも自分のため、または自分の大切な人、あるいは自分の大切な信念のために、生きようとしているのではないのでしょうか。そして、だれ一人自分のために死ぬ人もいない、とありますが、自分以外のために死ぬ人は、もっといないように思います。

そして、「わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬ」とありました。イエスさまのために生き、イエスさまのために死ぬ。そう聞くと、例えば、伝道のために生涯をささげて、殉教でもしなければならぬということか、と誤ってしまいます。自分を捨てて、生活も、命も捨てて、「主のために」と言って歩まなければ、ダメなのではないでしょうか。そうしなければ、わたしたちは救われないのでしょうか。

実は、ここは日本語が「主のために」となっているので、わたしたちは「主のために」、わたしたちが何かしなければならぬ、と読んでしまいそうになります。でも、直訳するのなら、8節は「わたしたちは、生きるとすれば主に生きている」あるいは「主へと生きている」。そして、「死ぬとすれば主に死ぬ」「主へと死ぬのです」となります。

わたしたちが生きることも、死ぬことも、主へと向かっている。主にあって生き、そして主にあって死ぬ、ということです。

わたしたちの人生、生活、命、死、生きることも死ぬことも、この存在まるごとが、主に向かっているのだ、と聖書は語っているのです。

<主となられたから>

では、どのようにして、わたしたちが生きることも、死ぬことも、主へと向かうようになったか。それが、9節に語られています。「キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。」

ここに「キリストが死に、そして生きたのは」とあります。普通、わたしたち人間は、生きて、そして死にます。しかしキリスト、救い主である神の御子イエスさまは、まことの人となられて、わたしたちと同じように生きて、死に、「そして生きた」のです。

これは、イエスさまの十字架の死と、復活のことを表しています。イエスさまは、まことの人となってこの地上に生きられ、十字架で死に、その後に再び生きられた。復活し、今も生きておられるのです。

そして、キリストが死に、そして生きたのは、「死んだ人にも生きている人にも主となられるため」でした。わたしたちのために、わたしたちの主となられるために、神の御子は、死に、そして生きたのです。

イエスさまの十字架の死と復活は、わたしたちのためです。イエスさまは、まことの人となり、わたしたちの罪をすべて担い、十字架によって死なれました。これは、わたしたちの罪と滅びの死を、すべてイエスさまが引き受けて下さるためです。そして、生きられた。復活された。罪にも、死にも勝利して下さった。そのようにして、罪と死に支配されていたわたしたちを、御自分の復活の命の支配下に入れて下さるためです。わたしたちの主と、なって下さるためです。

イエスさまは、罪も、死も、命も、すべてを支配する方とされました。

この方が、わたしと共にいて下さる。この方が、わたしの主となって下さる。わたしの生きること、わたしの死ぬことも、この方が支配し、御手の中に置いていて下さる。

これが、わたしたちに与えられている救いです。イエスさまと共にいて下さるということ。イエスさまがわたしの存在のすべてを支配して下さっているということ。生きるにも、死ぬにも、わたしたちは主へと向かっている。主の中にある、ということ。わたしたちが主のものであるということ。これを信じるのが、信仰であり、この恵みを知っていることこそ、救いなのです。

「生きるかすれば主のために生き、死ぬかすれば主のために死ぬのです」というのは、キリストの十字架と復活によって、わたしたちはすでに主のものとしてされており、すでに主へ向かうものとなっているのだ、という事実を語っているのです。

先に召された方々も、主に向かい、主のものとして、主と共にあるのです。そして、わたしたちは皆、生きて、死んで、終わるものではありません。復活の主へと向かっているのです。わたしたちは皆、主と共にあるなら、主と共に死んで、主と共に生きる者とされるのです。

ですから、終わりの日、救いの完成の時に、わたしたちもまた復活の体が与えられ、永遠の命に生かされ、イエスさまに結ばれたすべての者と共に、神さまの御前に立つことが出来る。その希望の約束を、信じているのです。

<主の御手に委ねて>

この主を知っていること。イエスさまが、わたしたちをご自分のものとするために、わたしたちの主となられるために、十字架で死に、また復活して下さったことを知っている者は、まことに幸いです。

イエスさまは、すべての者のために死に、そして生きて下さいました。それが、神さまの真実です。

わたしたちは、信仰の先輩たちが、その恵みに生き、そしてその恵みに死んだのを思うと共に、洗礼を受けていなかったあの人、主を知ることがなかったあの人を、思い起こすかも知れません。

しかし、今ここで、イエスさまが死んだ人にも生きている人にも主となって下さったことを知らされたわたしたちは、この主の恵みに、愛する人を委ねたいと思います。

そして、何より大切なのは、まさに今、自分が、この恵みの中に置かれているということを知ることです。ここにわたしたちのために、イエスさまが死に、そして生き、わたしたちの主となって下さったのです。この知らされた真実を今、感謝と喜びを持って受け止めたいのです。この救いへの招き、信仰への招きに応え、主を礼拝する者として歩んで行きたいのです。共に生きて下さる主、手を差し伸べ、わたしの存在をすべて抱き取り、導き、御自分の命へと向かわせて下さるイエスさまを受け入れ、自分自身もまた、生きることも、死ぬことも、そして復活の希望も、この主にお委ねしたいのです。

ですから、わたしたちは今日読まれた詩編の喜びの歌を、共に歌うことができます。

全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。

喜び祝い、主に仕え／喜び歌って御前に進み出よ。

知れ、主こそ神であると。主はわたしたちを造られた。

わたしたちは主のもの、その民／主に養われる羊の群れ。

感謝の歌をうたって主の門に進み／賛美の歌をうたって主の庭に入れ。

感謝をささげ、御名をたたえよ。

主は恵み深く、慈しみはとこしえに／主の真実は代々に及ぶ。

主の真実は代々に及ぶ。キリストの恵みは、代々限りなく、永遠に及びます。

生きるときも、死ぬときも、そして、終わりの日、復活が与えられるそのときも。わたしたちは主に向かって、主と共に、主のものとして、歩んでいくことができます。

### 【お祈り】

わたしたちに命を与え、すべてを支配しておられる、天の父なる神さま

イエスさまの十字架と復活によって、わたしたちを主のものとして下さったこと。主に生き、主に死ぬ者として下さったこと。復活と永遠の命を約束して下さったことを、心から感謝いたします。

わたしたちは今日、先に御許に召された、愛する兄弟姉妹を覚えます。その方たちが、イエスさまに結ばれて、主のものとされ、その救いの恵みに支えられつつ、地上の人生を歩み、そして終え、イエスさまの御許にあることを感謝いたします。

主よ、わたしたちにもまた信仰を与え、同じ救いの恵みに与らせて下さい。共にイエスさまに結ばれて、共に主のものとされて、復活の希望を見つめるものとさせて下さい。

今日は聖餐の恵みにも与ります。主に結ばれ、主の恵みに生かされていることの「しるし」であり、また主が再び来られる日に、復活を与えられ、天の食卓で共に見える、その約束の「しるし」です。このことを通して、どうかまたわたしたちの希望を確かにして下さい。

この食卓に、あなたはすべての者がイエスさまの救いを信じ、共に与ることを望んで下さっています。一人でも多くの方が、あなたの恵みへの招きに応じて、洗礼を受け、共にこの食卓に与ることが出来ますように。

復活の主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン